

先輩訪問

大手企業のシンクタンクで最先端技術の開発・企画に挑むOOB

犬塚博誠さん
1981年度 工学部電気工学科卒
三菱重工株式会社 勤務

航空宇宙、原子力、船舶、ロボット、環境、プラント、産業機械など、あらゆる科学技術の粋を集めた日本の代表的な企業のひとつ、三菱



重工業(株)で技術開発・企画に携っている先輩犬塚博誠さんにお会いした。ご本人は、インターネットで普及が進んでいる光ファイバ通信用デバイスがご専門。古巣の工学部電気工学科で電磁波・光通信技術工学の基礎を牧本利夫教授(故人)と杉尾嘉彦教授

(現職)からたたき込まれ、さらに阪大大学院に進学して本格的に基礎技術に関する研究にて工学博士の学位をもつ。仕事の話を知ると、入社から10数年、同社のシンクタンクに相当する技術本部基盤技術研究所(現先進技術研究センター)の연구원として光関連や電磁波の技術開発に従事。さらに本社技術企画部で市場調査と開発プランに参画するなど、まさに技術者の中核的な存

在だ。いまは本社航空宇宙事業本部の管理職として後進の指導にもあたっているという。眼光鋭くもの静かなこの紳士も、在学中の思い出を尋ねると思わず頬がゆるんで懐かしそうに語る。「草創期の大学には何もなく、なによりも、何でも自分たちで作っていた。なによりも立派な先生方に恵まれて、単に専門知識ばかりでなく、多面的なものの見方、考え方も教わり薫陶を受けたことに感謝しています」と。電気電子工学研究部に入部し、手づくりでスピーカー、アンプ、ミキサーなどの組立てに熱中したこと、これが発展して放送同好会(いまの放送部)にも入会、放送部に昇格させ初代部長も務めた。摂大祭の裏方で、なかば実行委員の仕事もしたという。そのせいか、私生活でも、ものづくり(パソコンの組立など、楽器(ギター)演奏、車、歴史書など多趣味だ。そんな先輩から後輩に「目標をもちつつ、自分で自分の枠をつくらず、少し背伸びすること、そして自分はこれができる、ではなく、なんでも貪欲にやります、という意気込みが大切」とエールを送る。(F)

面白いぞ。役に立つぞ。学習支援センター

「自分は高校の時に苦手だったからよく分らない」、「テストが近いが誰か教えてくれなかな。基礎的な事で、いまさら友達にも聞けないし!」など困った事はないだろうか。こんな時、君たちの強い味方になってくれるのが学習支援センターだ。3号館2階にあり、12時10分から19時まで(土曜は14時まで)、授業がある日は毎日開室している。

この支援センターは、「面倒見の良い工学教育」(波田センター長(工学部長))を目指して2004年度に開設された。「物理」と「数学」の科目を中心として、「情報」や「英語」も、13人のスタッフに加え、物理学教室の専任教員も応援

に入る。取材当日も数学教室の渡会征三助教が、ホワイトボードを前にして学生たちを熱心に教えた。また、大学院生のティーチングアシスタントも常駐していろいろなアドバイスももらえる。

その中心となるのが「学習相談」と「補習授業」だ。学習相談は、自習室に常に担当の教員が待機していて、分からないところがあると気軽に相談できる。学生からは「気軽に聞けるのがいい。すごく分かりやすく説明してくれる」(井上勝也君。建築1年)と好評だ。一方「補習授業」は、1週間1つのテーマを繰り返して講義する。月曜から金曜まで5回も同じレッスンがあり、学生は都合のいい時間に受講できる。担当教員のひと



「元氣」のでる経営学」経営情報学部公開講座



「元氣」をキーワードに、経営学の面白さとこれからの企業経営を学ぶ、経営情報学部の公開講座が、4月から7月14日まで公開される。第一回の授業では、栗山学長自ら企業

での体験をもとに、「経営の効率化」「情報システム」について語られた。他にも、本学の教授はもちろん、企業経営者をも講師として招き、内容満載。参加は誰でもOK。(ただし事前申込み)日時は土曜日10時40分から約90分間。詳細は経営情報学部事務室まで。

摂大生有志がサッカー日本代表応援会を実施!



6月8日、サッカー日本代表がW杯出場を決めた北朝鮮戦は、漢合健君(経情1年)を始めとした有志団体が学生課と共同で応援会を行った。当日、会場となった13号館2階の第3食堂には、約130人も摂大生が、大型スクリーンに映し出される熱戦に汗を握りながら応援を送った。2対0で日本代表の勝利が決まった瞬間は、会場全体が歓喜の渦に取り囲まれた。